

今週のモーニングセミナー報告

令和5年5月17日(水)の講話 <第940回>

テーマ:「3年間の発熱外来で学んだ事」

講師:香川県東かがわ市倫理法人会 幹事 (医) 田村内科医院 理事長 田村敬二様

(松浦清貴 会長) 五月の誕生日プレゼント。誕生月会員の紹介。今日の講話者・田村敬二先生のコロナ過での最前線での診療ご苦労があったと思いますが、私が東かがわ市で35番目の感染者になり有名人になりました。10日間の隔離、家族・親戚への感染、憂えることの多い感染症でした。本日の万人幸福の葉(十五条)信ずれば成り、憂えれば崩れる。いつまでも憂えてはダメ、憂えても30秒後には立て直したい。すぐ心を立て直す大事さを語っていただきました。

(田村 敬二様) 先週久しぶりにMSに出席させていただきました。皆さんから温かく迎え入れて頂きありがとうございました。生まれは岡山、父の転勤で山口~今治~4歳の時(昭和36年)に父が三本松で開業。62年目です。ご自身帰省して25年目。大学卒業後救命救急センターでの勤務10年。救急センター勤務はいつ呼び出しがあるかわからない仕事。心筋梗塞・脳梗塞など一刻を争う患者さんを、二人の医師交代で、手術関係者スタッフとともにカテーテル手術などをする仕事でした。時間が勝負。発症から6時間経過すると心臓は腐敗し始める。今年から医師の働き方改革を叫ばれていますが、当時は修行の場なので、残業手当なし、バイトで生活費を補っていた。給料は9万円程度。10年間いたけど、体はボロボロ結婚し子供も出来ました。生活は大変。大学病院で10年間、済生会病院で3年間、そして帰省。医院での患者さんは生活習慣病がほとんど、高血圧、糖尿病、高尿酸血症など。長い年月の結果、血管が詰まりやすくなったり心臓、脳にその症状が出る。コロナ感染はワクチン接種が重症化を防げる。接種6回目という人もいます。患者さんの不安を取り除く声かけ次第で、患者さんは元気な表情になる。病気は不安が一番。そこで不安を取り除くことが一番。医院以外に三本松高校、白鳥中学校などの校医、産業医、警察医(検死の依頼など)医師会の指定医、医大・看護学校での講話、毎週ハードな仕事をこなしています。コロナが流行して発熱外来の指定医院になる。県に申請してその設備も大変だった。換気設備が肝心。待合のスペースなど区分する必要がある。予防衣、換気のエパフィルター設置。フェースシールドなど。コロナに感染しても今は熱を下げる特効薬があります。ほとんど重症化しない。5月8日以降5類に指定されたので一般の医療機関でもコロナの患者さんを見ることができるようになった。超多忙な日々と元気はつらつとした姿を拝見させていただき、65歳の先生がこれからは、再びマラソンをして足腰を鍛え、痩せなければと・・・ご自身のことを語っていたのが印象的。

担当者:赤山 芳隆

田村内科医院の田村先生に「3年間の発熱外来で学んだこと」というテーマで講話をしていただきました。川崎医科大学付属病院、香川県済生会病院勤務を経て田村内科の院長として勤務。大学病院勤務時代、心筋梗塞の時は時間との勝負の為に夜中でも救急患者が来ると対応してきた話をされました。田村内科では朝8時から夜18時まで外来患者を診察して、産業医、校医、講演など休むことなく活動をされていて話を聞いてびっくりしました。コロナ禍の3年間は、喚起、消毒、待合室が密にならぬように車で待機、簡易のテントを立て診察など工夫をしていき、ワクチンについても高齢者、持病のある方はワクチンをうったほうがコロナに感染しても重症化しなくて済むことなどを話しされました。私もデルタ株に感染したことで大変でしたがコロナと3年間闘ってくれた医療従事者はその何倍も大変だったと思います。コロナが5月8日に壘に移行したとはいってもコロナがなくなるわけではない。人類はウィルスとの闘いの歴史がある話をされました。地域の医療を支え、ジョギングに励んだりする田村先生を見習って私も仕事とスポーツをしていきたいと思いました。講話ありがとうございました。

会長:松浦 清貴

連絡事項

※次回は5月23日(火)18:00~クアパーク津田にて倫理経営講演会があります。翌日5月24日(水)朝6:00~7:00クアパーク津田にて経営者モーニングセミナーをします。「信じきる」と題しまして(一社)倫理研究所 法人局 法人レクチャー 下村修功様、「純粹倫理の実践」と題しまして(一社)倫理研究所 法人局 法人スーパーバイザー 天野純一様のご講話を予定しております。次回も是非ご参加ください。

出席社数 18社 18名

香川県東かがわ市倫理法人会 TEL (0879)26-9000/FAX (0879)26-9001

メールアドレス rinri-hk@ma.pikara.ne.jp